編 集 後 記

○あけましておめでとうございます。

畜産にとって期待すべき新しい年が始まりました。巻頭言にありますとおり今年は昨年11月国会を通過した畜産に関係する諸法律が、いよいよ実施に移されることになります。農業基本法や、政府の所得倍増計画の策定、さらに農林省でもこれにつながる畜産10ヵ年計画が作成されているようですが、岡山県でも農林漁家就業改善対策案がこのほどとりまとめられ、10年後には岡山県の生産規模は５倍にもなると見通しを立てています。そして農業部門でも本月号の内容（県畜産の現状とこれからの方向）にありますように、農業の主畜経営による所得目標も76万円以上の高い水準が要求されているようです。

この各方面の計画ムードともいうべき昨今の情勢はすでに新聞、雑誌などで御承知かと存じますが、一応かなりの曲折はあるとしても、お互いが協力し努力すればかなりの躍進が期待できるということは云えると思います。今年はこうした明るい目標にどうしたら計画どおり近付けるか、いよいよその基礎を築き上げる重要な年であると思われます。

○県北の改良草地には数十頭の酪農協業経営の大型牛舎が点在する。そこでは機械力がふんだんに取入れられて、生産された牛乳は搾乳器からパイプラインを通り高周波か超短波加熱などで瞬間殺菌、冷却されて貯蔵タンクへ。糞尿の搬出処理もすべて自動化される。

数万羽のマンモス鶏舎は給餌、採卵も機械化し、テレビ監視の遠隔操作によって数人の管理で経営される。難物の鶏糞も火力乾燥でまたたく間に袋入りの肥料となって積上げられる。そして文化住宅で明るい農村生活を楽しむ。元日の初夢ではありませんが、これもいまの自動車、テレビ、電気冷蔵庫などの普及の早さを考えますと、そう遠い夢でないと思います。

○今月号は例年どおり県の畜産行政の現況とこれからの方向といったことで、県畜産課の担当係に解説をお願いしました。硬い内容になりましたが大よその動きはわかるものと思います。

昨年の十大ニュースにもあげましたが県立酪農大学校が12月１日開校され、惣津初代校長からの挨拶をいただきましたので御紹介します。また畜産関係試験場からそれぞれ示唆に富んだ新年の挨拶が寄せられました。一読願いたいと思います。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。　（編集子）

〔表紙写真〕

瀬戸の初日の出（岡山県広報課写す）